

---

# Who is wise?

霧崎 邪駒

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Who is wise?

### 【Nコード】

N5465N

### 【作者名】

霧崎 邪駒

### 【あらすじ】

戦争で、人類が激減してから数百年後、ある遺跡から、錬金術の賜物である、原子操作ができる石が発掘された。「ヌーチャーストーン」と呼ばれている。それは、様々なところで発掘され、様々な兵器に使われていた。そして、古くに作られ、芸術品や工芸品などに紛れたヌーチャーストーンを狙う怪盗がいた。その名、怪盗・Wise。今宵も青を纏い、石を攫っていく。

序章 mysterious thief (前書き)

企画初参加です。

宜しく願います。

## 序章    m y s t e r i o u s    t h i e f

人類が温暖化と戦争で激滅してから数百年。

人々は、小さな都市国家を作り、世界は再び、古代ギリシャのような時代に入った。

そして、原子操作ができる石「ヌーチャーストーン」を発見し、人々は、それを様々な兵器に使い始めた。

この世界で、一番大きな都市国家がある。

高い、高い、壁で護られた都市、

グレイクローズシティ。

この都市で、古くに作られた芸術品や工芸品の中に紛れたヌーチャーストーンを狙う怪盗達がいた。

けたたましい、警鈴がなるなか、機械的な建物の廊下を走る男が一人。

水色のワイシャツの上に青い長い上着。

頭には、青い地に黒いリボンのソフト帽を被り、黒髪の中に混じって、長く伸びた青い髪が横からでている。

左目の前に出ているアイコン付きのヘッドホン型の通信機をしていて、

左腕には、何かの機械をはめている。

彼の手には、彼の衣装には、目立つ、赤い宝石のペンダントが握られていた。

彼は、怪盗・W i s e

ヌーチャーストーンを狙う怪盗の1人である

ピピッと彼の通信機から、電子音が鳴る。

「ワイズ。」

通信機で通信してきている男の声

今まで、不敵に笑っていたワイズの顔の眉間にシワがよる。

「んだよ。」

『目標の物は、<sup>タイゲット</sup>確保できたか？』

ワイズは、手に持っているペンダントを確認する。

「ああ、リーベルの赤い瞳だろ？この手にしっかり持ってるぜ。」

『そうか。私はこのまま、セキュリティシステムを制圧をしている。』

「了解……………つて」

ワイズは、男に返答を入れつつ、スピードを落とし、止まる。

前を見て、マジで？と苦笑いをしながら、冷や汗をかいていた。ワイズが向かっている先に、たくさんのロボットスーツを着た兵士達が銃を構えていたからだ。

「すいませーん。草壁さん？」

目の前に、敵さんがたくさんいらっしやるんツスけど……………セキュリティを制圧したんじゃないの……………」

若干ワイズはイライラしながら男に言う。すると、ワイズの耳元でため息が聞こえた。

『いつも、言ってるだろう。私が、ゲートを閉めても、奴らが破って来るんだよ。』

敵を越えた先に、窓があるから、そこから出る。』

「ここ、六階だよ？俺に死ねと？」

『……………外で空中バイクに乗って待機してると言ったら？』

それを聞くとワイズは、ニカッと笑い、右手であるものを取り出した。

それは、片方に接続部の付いたガラスケース。

中には、銀に輝く石が入っている。

それを左腕の機械に装填しながら、男に返事をした。

「atom・iron」

「それじゃあ、喜んでそちらに向かわせていただきます。」

すると、左腕の機械から、長い両刃が出てきた。

ワイズが機械に入れた石は、

「鉄のヌーチャーストーン」

鉄の原子を操作できるヌーチャーストーンである。

ワイズは、鉄のヌーチャーストーンを使って、剣を作り上げたのである。

兵士達が銃を打った。

「がはっ！！??」

ワイズは、高く跳び上がり、一番手前の兵士の頭を踏み、蹴って、

着地し、近くにいた二人目の兵士を斬り、三人目の兵士が打った弾を剣で弾いた。

四人目の兵士をワイズは、剣で刺し、抜いた後、三人目の兵士の顔に後ろ回し蹴りをお見舞いする。

五人目の兵士がワイズの顔を狙ってナイフを突き出す。それをワイズは、屈んで避け、そのまま潜り込み、腹を殴る。

六人目の兵士に足払いしたあと、腹を踏みつけ、そのまま、窓に向かって走る。

ワイズは、前に跳び、身をかがめて、窓を破り、外つまり空中に出た。

そのまま落下しそうになるが、

「ワイズ！！！！」

ワイズは、エアバイクという、空を飛ぶバイク型の乗り物に乗っている、ゴーグルをした青い髪の男に、腕を掴まれた。

「マツマジで死ぬかと思ったじゃねえか！！！草壁！！！」

ワイズは、男、草壁に引き上げられながら、息をゼエゼエと吐いた。



ビルの中つまり、さつきワイズがいた所に、たくさんの兵士たちが集まっていた。

下から、エンジン音がする。

兵士達は窓を見た。

兵士達の視線の先に、エアバイクの後ろに乗り、リーベルの赤い瞳を見せびらかす、ワイズがいた。

「諸君、リーベルの瞳はいただいていくよ。」

怪盗・Wise

「Who is wise?」

序章、mysterious thief

青を纏い、今宵も石を攫っていく。

次のターゲットを何か……………

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5465n/>

---

Who is wise?

2010年10月9日08時45分発行